

第18期業績のご報告

(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

平成26年 9月 吉日
日本システムバンク株式会社
代表取締役社長 野坂 信嘉

当事業年度の我が国経済は、政府主導の経済政策や日銀の金融緩和政策などを背景に円高傾向の是正や物価上昇が進んだ結果、企業収益が改善、個人消費が底堅く推移するなど、穏やかな景気回復基調が見られつつありますが、消費税率の引き上げや円安の進行による原材料価格の上昇などによる国内経済の下振れ懸念、米国の財政問題や新興国をはじめとする海外景気の鈍化の影響などにより依然として不透明な状況が続いております。

駐車場業界におきましては、都市部を中心としたマンション・戸建住宅建築増加の波を受け、一部の駐車場で解約の影響を受けることとなりましたが、慢性的な駐車場不足及び景気の回復基調を背景に、駐車場の利用は増加傾向にあります。

このような環境のもと、当社は主力事業でありますコインパーキング事業におきまして、引き続き新規駐車場の開設と、駐車場機器の販売及びメンテナンスに注力致しました。また分譲マンション事業におきましては、残1棟の完売に注力致しました。

以上の結果、売上高は6,202,260千円(前期比106.2%)、営業利益は288,221千円(前期比161.1%)、経常利益は161,860千円(前期比408.2%)、当期純利益は32,968千円(前期比729.8%)となりました。

事業区分別の業績は以下の通りです。

【コインパーキング(以下CP)システム運営事業】

CPシステム運営事業におきましては、駐車場の新規開発及び駐車場の需給バランスを考慮した料金設定の最適化を継続的に実施し、駐車場の採算性の向上に努めてまいりました。また、駐車場の付加価値向上を図るべく、「電気化と電子化」をコンセプトに電気自動車の充電設備及び電子マネー対応現場の拡大に注力致しました。その結果、売上高2,612,473千円(前期比100.9%)となりました。

【CPシステム販売管理事業】

機器販売事業においては、運営会社様の開発計画が増加傾向で継続したこと及びコンサルティング営業の推進により堅調に推移致しました。またメンテナンス事業は、当社の最大の強みである「保守サービス」に磨きをかけ、新規契約の獲得に注力致しました。その結果、売上高2,765,211千円(前期比120.6%)と大幅に伸長致しました。

【プロパティマネジメント事業】

キャッシュフロー経営を重視し、収益性の低い物件を売却致しました。また、その他の物件については、「満室経営」を目指し、物件の稼働率の向上に注力致しました。その結果、売上高273,311千円(前期比95.7%)となりました。

【分譲マンション事業】

分譲マンション事業については、最後の1棟となった福井駅西口「エアラス」の販売に全社一丸となって注力致しました。その結果、上半期末に完売、当社が取り組んだ分譲マンション3棟全て完売致しました。売上高は551,060千円(前期比82.0%)となりました。

事業別の売上高は次の通りであります。

事業区別	売上高	前期売上高	前期比
CPシステム運営事業	2,612,473千円	2,589,057千円	100.9%
CPシステム販売管理事業	2,765,211千円	2,291,349千円	120.6%
プロパティマネジメント事業	273,311千円	285,383千円	95.7%
分譲マンション事業	551,060千円	671,802千円	82.0%
その他	203千円	300千円	67.6%
合計	6,202,260千円	5,837,893千円	106.2%